

参考様式第 15 号

番 号  
年 月 日

鹿児島県農業再生協議会 米盛幸一 殿

所在地 鹿児島県鹿児島市鴨池新町 10-2  
取組実施者名 鹿児島県肥料コスト低減グループ  
代表者氏名 鹿児島 太郎

令和5年度肥料価格高騰対策事業取組中間報告書

肥料価格高騰対策事業実施要領（令和3年12月20日付け3農産第2156号農林水産省農産局長通知）第14の規定及び鹿児島県肥料価格高騰緊急支援事業実施要領（令和4年10月5日付け経技第401号鹿児島県知事通知）に基づき実施する。

参加農業者への聞き取りの上、低減に取り組んでいる状況を記入してください。

記

任意となりますが、取組実施者目線での状況も記入していただけると幸いです。

取組の実施状況

取組メニュー	取組の実施状況
ア 土壌診断による施肥設計	<ul style="list-style-type: none"><li>・農家への呼びかけを強化し、土壌診断の実施点数が増加傾向となっている。</li><li>・〇月～〇月にかけて土壌診断を実施し、施肥内容を検討した。</li><li>・土壌分析項目を増やし、施肥設計を行った。</li></ul>
イ 生育診断による施肥設計	<ul style="list-style-type: none"><li>・センシングデータを用いた施肥設計に向けてIT企業と協議を開始した。</li><li>・〇月の地域の青空講習会において、生育診断を実施し、施肥内容を検討した。</li><li>・葉色カラースケールによる生育診断を実施した。</li></ul>
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域に合った低投入型肥料の銘柄を調査し、3銘柄を選定した。</li><li>・地域、部会等で肥料低減を目的とした施肥設計を取り決めて栽培した。</li></ul>

<p><b>エ 堆肥の利用</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥提供者と供給量について交渉を行っているところ。</li> <li>・〇〇haにおいて堆肥を施用した。</li> <li>・水稲作付後に堆肥を施用予定。</li> </ul>
<p><b>オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚泥肥料を利用した試験ほ場を設置し、生育試験を実施中。</li> </ul>
<p><b>カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペレット堆肥を混合した肥料を活用した。</li> <li>・水稲収穫後に、残渣をすき込んだ。</li> </ul>
<p><b>キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機質肥料である〇〇〇〇(肥料銘柄)を活用した。</li> <li>・特殊肥料入り指定混合肥料を栽培暦の基本施肥銘柄に設定。</li> </ul>
<p><b>ク 緑肥作物の利用</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソルゴーを〇〇haにおいて作付した。</li> <li>・緑肥種子の購入額を一部補助することによって注文数量が増加した。</li> </ul>
<p><b>ケ 肥料施用量の少ない品種の利用</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇〇〇(品種)を推奨品種に選定して作付拡大を図っているところ。</li> <li>・前年まで作付けしていた「あきほなみ」を施用量の少ない「ヒ/ヒカリ」に転換した。</li> </ul>
<p><b>コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇〇〇(肥料銘柄)の販売量が増加傾向となっている。</li> <li>・低成分肥料(P, K が減)の〇〇〇〇(肥料銘柄)に切り替えた。</li> </ul>
<p><b>カ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等を含む)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローンを活用した追肥作業の試験を実施し、栽培マニュアルを作成中。</li> <li>・可変施肥機付田植機を新たに導入した。</li> </ul>
<p><b>シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等)の利用</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3件の農家がうね立て同時施肥機を購入。</li> <li>・側条施肥を令和5年度より導入した。</li> <li>・局所施肥機をレンタルし、作業した。</li> </ul>
<p><b>ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育苗箱専用の〇〇〇〇(肥料銘柄)の販売量が増加傾向となっている。</li> <li>・育苗時のポット苗の用土に肥効調節型肥料を混合して定植し、肥料低減を図った。</li> </ul>
<p><b>セ 化学肥料の使用量及びコスト低減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し(ア～スに係るものを除く。)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家に低価格の〇〇〇〇(肥料銘柄)の紹介したところ、販売量が増加傾向となっている。</li> <li>・新たに肥効調節型の肥料を導入し、施肥量の削減を行った。</li> </ul>

<b>ソ 地域特認技術の利用( )</b>	
-----------------------	--

(注)

- 1 取組メニューには、取組実施者において取り組んでいるメニューを記入し、適宜、行を追加すること。
- 2 参加農業者が、中間期間までにどのような取組を行ったのか、また、取組前と比べてどの程度取組が進んでいるか、使用記録等を参照し記入してください。